

生きがい就労の創成

東京大学高齢社会総合研究機構



東京大学 高齢社会総合研究機構
INSTITUTE OF GERONTOLOGY, The University of Tokyo

沿革：2006年：東京大学総括プロジェクト機構 **ジェロントロジー寄付研究部門** 設置
2009年：東京大学**高齢社会総合研究機構**（総長室総括委員会の下に）設置

活動目的：活力ある超高齢社会の構想と実現・人材育成 超高齢社会に対応した新しい社会の標準モデルを創出

組織：兼任教授4名・専任准教授1名、特任教授2名、特任助教15名、特任研究員14名、学術支援職員等12名、事務補佐員等10名。運営委員20名・学内連携教員等48名の教員が11研究科・9センターから参画。

教育

□大学院教育：LU：活力ある超高齢社会を共創するグローバルリーダー養成プログラム[GLAFS]2013～
□学部教育：学部横断型教育プログラム「ジェロントロジー」（修了証を授与）2009～

研究

基礎研究：分野横断的共同研究（GLAFS学生をインボルブ）/若手研究者による先駆的研究（科研費等）

基幹研究：分野横断的地域連携型フィールドスタディ（アクションリサーチ）
— 超高齢社会の物的・社会的な生活インフラのデファクトスタンダードモデルの研究開発
（主に、柏市・福井県坂井市等・岩手県大槌町等、鎌倉市、茅ヶ崎市等をフィールドとして）
・い（医）：次世代地域包括ケアシステム・モデル
・しよく（食/職）：社会的包摂・社会参加推進活動モデル
・じゅう（住）：超高齢社会に対応した日常生活圏空間構成モデル

産官学民連携研究

・ジェロントロジー・コンソーシアム（2009-10）→ジェロントロジー・ネットワーク（2011～）
・受託研究・共同研究

国際連携活動

・国際会議の主催・共催、IARU/APRU関係の活動
・国際共同研究への参加
・海外訪問団の視察・交流受入

政策提言・ 市民啓発事業

・様々な媒体を通じたジェロントロジーや高齢社会問題に関する知の公開・普及
・様々なチャンネルを通じた国・自治体の公共政策に関する関与（助言・提言・コンサルティング。受託研究）
・高齢社会問題の市民向けテキストブック出版（2013）と高齢社会エキスパート検定試験の監修（2013～）

柏市・豊四季台地域の高齢社会対応のモデルまちづくり

○東大IOG-柏市-UR都市機構の共同事業(2009年度～)

○柏市豊四季台地域をフィールドにした超高齢社会対応のモデル地域開発

目標⇒「Aging in Place」コミュニティの実現

超高齢社会対応コミュニティ環境の3要素に応じた3つのサブプロジェクト



い(医) ケアサポート

多分野多職種連携の包括的ケアシステム
【医】次世代地域包括ケアシステム

しょく(食/職) 交流・社会参加

住民主導の地域交流・社会参加の場づくり
【職】生きがい就業・起業の活動

じゅう(住) 居住環境・生活支援

引きこもらず人と集い楽しむコミュニティ
【住】コミュニティスペース豊かな
歩いて暮らせるまちづくり

生きがい就労PJの考え方

- 2030年には65歳以上は3人に1人、75歳以上は5人に1人の割合に
- 現役をリタイアした高齢者の多くが、新たな活躍場所を見いだせずにいる
- 自宅に閉じこもることは、極めて不健康
- 今の高齢者は若返っている 高齢者の多くはまだまだ働きたい



高齢者に無理なく、働いてもらうことができれば、個人の心身の健康維持に寄与するとともに地域社会の課題解決にも繋がると予測

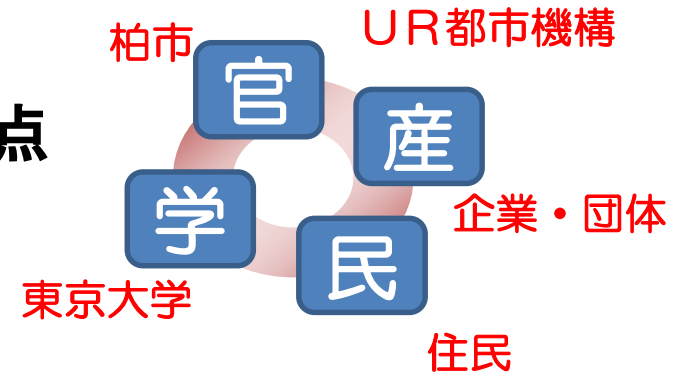


働きたいときに無理なく楽しく働ける + 地域の課題解決に貢献できる

生きがい就労事業の創成

体制

柏市、UR都市機構、東大、柏市内に拠点を
持つ株式会社等、柏市住民が協働で
プロジェクトを進める



目標

◆「農」「食」「保育」「生活支援」「福祉」の
5つの側面から8つの就労事業モデルを創造し
持続的な事業運営の確立を目指す

◆当該事業が高齢者自身および地域社会
に与える複線的な効果を検討する



成果

生きがい就労事業の開発・運営のプロセスをマニュアル化
他地域への普及をめざす



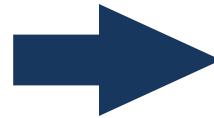
生きがい就労・オペレーション・プロセスの概要

事業所の開拓



平成23年11月～25年3月:計7回延べ557名参加

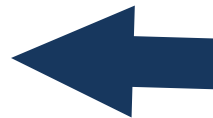
就労希望高齢者を募る



就労セミナーで意識付け



就労高齢者同士の交流



各事業者で就労

5分野8事業を開拓

※H26.3月末時点
(生きがい就労延べ人数230名 現在就労者数167名)

事業統括組織

農

①休耕地を利用した
都市型農業事業

LLP「柏農えん」ほか36名

柏市農業者有志により結成された有限責任事業組合

農

②団地敷地内を利用した
植物栽培ユニット事業

平成25年4月より

東京大学(IOG)の研究事業として試行稼働 6名

農

③建替後リニューアル団地における
屋上農園事業

建替後のUR団地内に設置を検討

食

④コミュニティ食堂

民間事業者が建設

(平成27年度事業開始を予定)

保育

⑤学童保育事業

【学童+塾】杉浦環境プロジェクト(株) 25名

保育

⑥保育・子育て支援事業
※ 同業他者へ展開中

【子育て支援】学校法人くるみ学園ほか 20名

支援

⑦生活支援・生活充実事業

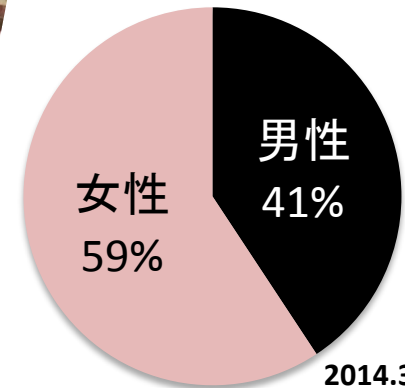
東京海上日動ベターライフサービス(株) 15名

福祉

⑧福祉サービス事業
※ 同業他者へ展開中

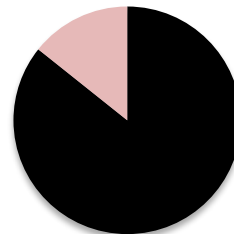
(社福)小羊会 特別養護老人ホーム
柏こひつじ園ほか 65名

～活躍するシニア～

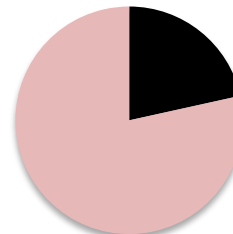


2014.3現在就労者

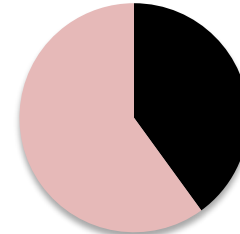
農業分野



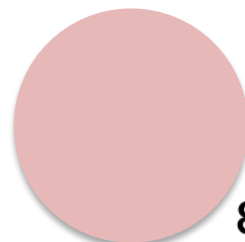
福祉分野



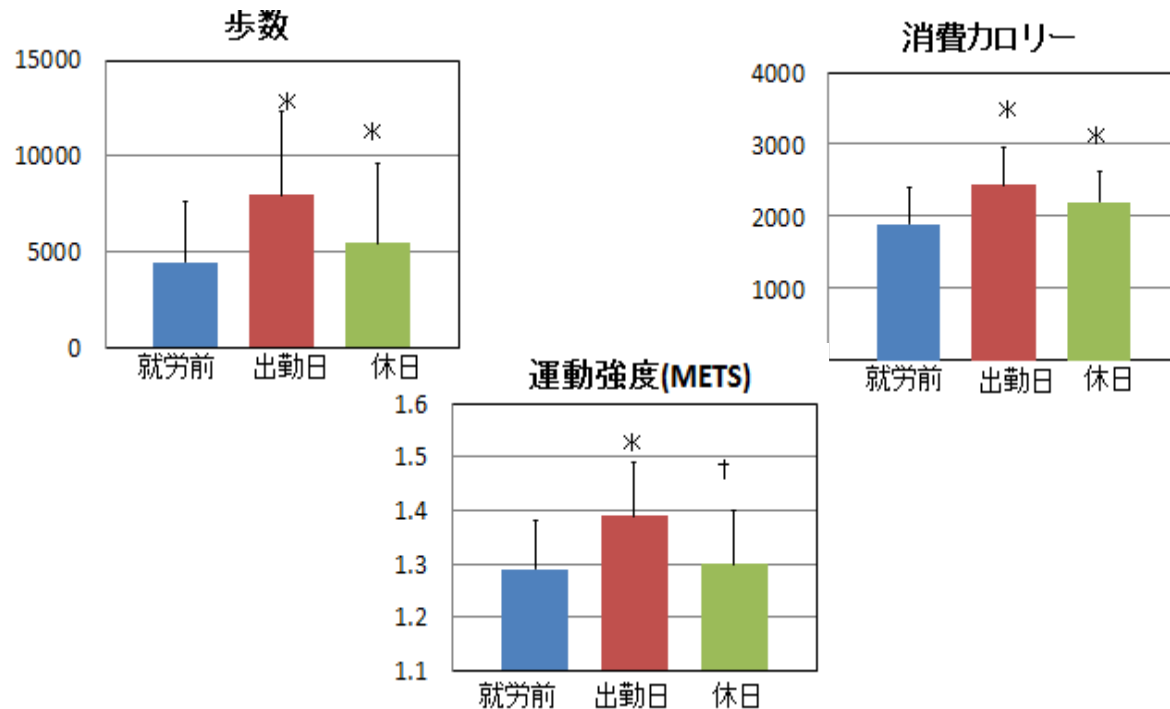
保育分野



生活支援分野



就労の効果の分析(暫定版)



- 就労者の活動量記録から、就労日だけでなく、**それ以外の日においても**活動量が増加する傾向にあることが確認された
- 生きがい就労は**生活全般**に対して良い影響を与えている可能性が示唆された
- 運動能力**や**精神的健康度**についても、改善傾向が見られる
- 就労活動の心身の健康に関する効果についての定量的な立証は道半ば
- 今後、より多くの人を、長期にわたって追跡して検証を続けていく

	就労前	出勤日	休日
運動強度	1.29±0.09	1.39±0.10*	1.30±0.10*
消費カロリー	1897±501	2429±520*	2195±439*
歩数	4484±3157	7998±4392	5466±4185 [†]

*

n=12 平均記録日数:31.0日(就労前:10.3日、出勤日:6.4日、休日)

[†] p<0.10, * p<0.05 vs就労前

今後の展開

事業統括組織の機能継承(＝生きがい就労事業の自立化)とともに、
高齢者のセカンドライフ支援に向けてさらなる取組みを継続する方向

I 柏市での継続展開

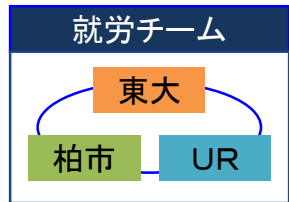
- ワークシェアリングモデル開発、ジョブコーディネーター育成 他
- 高齢者の社会参加と効果検証(高齢者コミュニティの実態把握他)

①【独自に取り組むこと】
独自の活動継続(@柏市)
と研究テーマの拡大・深化

II 実装化推進

- シルバー人材センターでの生きがい就労機能の継承・実装化 他

②【国に協力を求めること】
上記活動を踏まえたうえで
最終的に全国的な
環境整備の実現を追究



(柏市豊四季台地域
高齢社会総合研究会)

最終
目的

～国・地域社会全体でセカンドライフの充実をはかる(65歳以降者就業率を高める)
ための新たな制度・システムの創造～

(中長期的視点:理想)→「セカンドライフ就労支援組織・システム(仮称)」の全国整備

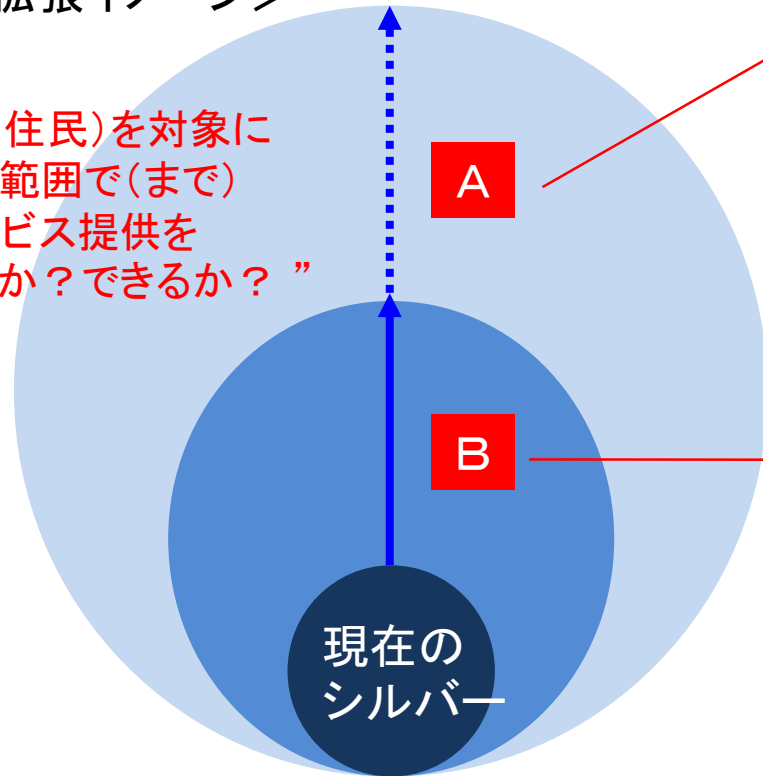
※「シルバー人材センターの改編(機能強化・拡充)」、民間企業の参加による実現を想定

シルバー人材センターの機能強化・改編イメージ

シルバー人材センターが担う機能・役割をどこまで拡張することができるか？
＝社会的ニーズにどこまで応えられるか？

＜シルバー人材センターの機能・役割の
拡張イメージ＞

“誰(住民)を対象に
どの範囲で(まで)
サービス提供を
するか？できるか？”



＜拡張内容・レベル＞

A

セカンドライフ支援機能の実装

- リタイアシニアの情報(多様な活躍ニーズ)を一元管理
- 地域資源(活躍フィールド)の把握と提携(協力関係の網羅的整備)
- 多様なシニアニーズに適う活躍場所を円滑にナビゲート(対象事業者、組織とマッチング)

B

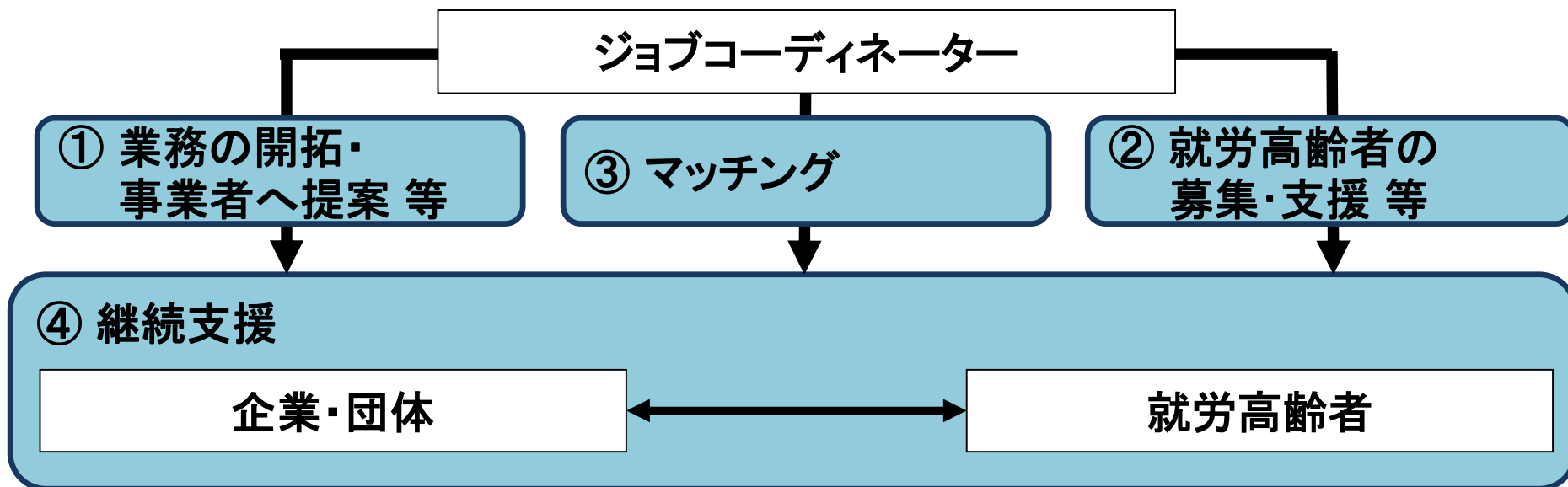
生きがい就労機能の実装

- 住民向け、啓発・動機付けの強化
- 活躍場所の開拓・提案の強化
 - ー有料幹旋、派遣業務の拡充
 - ーワークシェアリングの積極導入
- マッチング強化、就労シニア・事業者に対するフォロー強化

拡張機能の実装に向けての「課題」と「可能性」を追究したい！

柏市シルバー人材センターへの事業継承に向けた課題

H25.10～ジョブコーディネーターを2名配置し、オペレーション継承を目指す



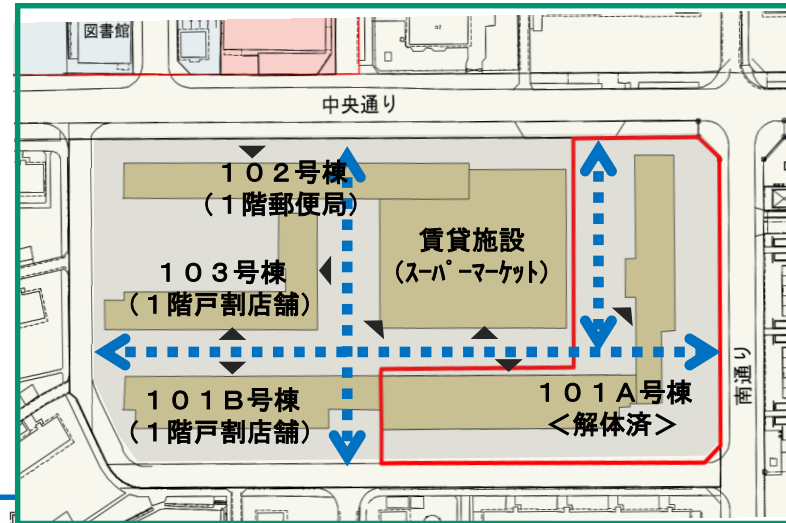
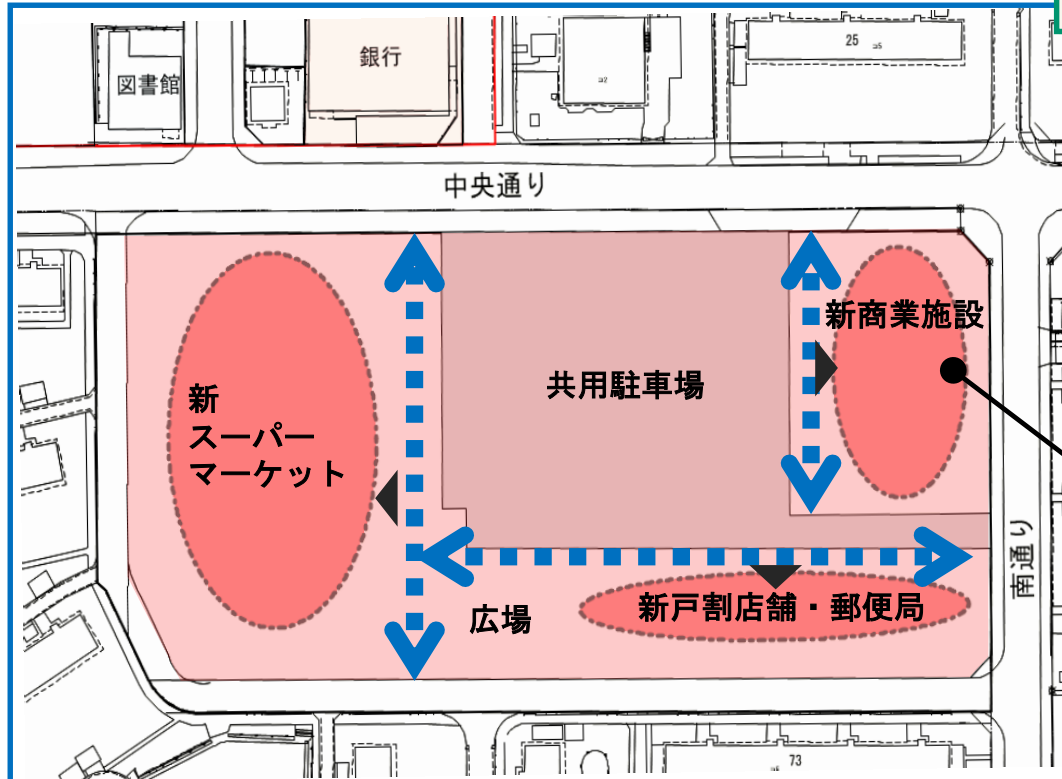
■シルバー人材センターにおける職業紹介（生きがい就労）の課題と方向性（案）

- ホワイトカラーを中心とした高齢者に魅力ある働き場を提供するためには、従来の請負だけでなく、職業派遣や有料職業紹介を通じたマッチングが必要。
- こうしたマッチングがシルバー人材センターの事業として成立するためには、適正な手数料設定や運営ノウハウの確立などを通じた採算性の確保が求められる。

コミュニティ食堂の概要

- 平成22年8月より、商業街区の建替えに着手
- 営業を継続しながら、段階的に建替えを実施
- 建替えにあわせて、コミュニティ食堂を備えた新しい商業施設を誘致
- コミュニティ食堂の機能
 - ・気軽に立ち寄り、コミュニティを構築できる場
 - ・地域の食を支える場
 - ・高齢者の「生きがい就労」に資する場

▼建替え後



歩行者路
店舗入口面

▲現状

コミュニティ
食堂

コンビニエ
ンスストア

温浴施設

その他

※現時点での計画であり、今後変更が生じる可能性があります。